

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅢ	チーム名	KING KAZU
タイトル	どうしてお金の話を「やらしい」と感じるのか		
テーマ群	a)理論・情報		
メンバー	秋元翔・梅村奈央・小笹亜未・北村藍子・黒田良隆・古我知亮・譽田貴久・高田翔太・田中博之・中川葉津紀・橋本明良・本同正一・村地薫・森崎浩平・山本大夢・山本瑤子		
研究計画内容	<p>人はお金の話をなぜ「やらしい」と感じるのだろうか。「やらしい」人と思われるたくないがために年収を聞くことをためらい、人が着ている服を見て『「やらしい」話やけど、その服なんぼ?』と聞く。また、人は「お金が大好き!」と公言しづらいのではないだろうか。このように人はお金の話を「やらしく」感じてすぐには聞けなかったり、話しにくかったりする。</p> <p>なぜお金の話をみんな話したがるのか、なぜお金の話をやらしいと感じてしまうのかということについて考える。</p> <p>○目的 「お金の話はなぜやらしいのか」というテーマを通じて人々のお金に対する見方や考え方について研究し、お金に対してよりよい考え方を提示する。</p> <p>○内容 日常でやらしいと感じるお金とやらしいと感じないお金の例を挙げて人々のお金に対する見方を研究する。次にお金に対してやらしいと感じることは昔からあったのか・いつから始まったのかということの研究し、お金に対してやらしいと感じることは日本だけなのか、他の国はどうか、文化によって違いがあるのか。そしてそれらを通じて時代や文化に関係なく人間に共通の性質があるのかどうかを研究する。そこから人々のお金に対してやらしいと感じることの理由について明確にし、よりよいお金に対する見方を考える。</p> <p>○期待される結果 人がお金に対してやらしいと感じることの理由を明らかにし、よりよいお金に対する見方を提案することが出来る。</p>		